



## 京都市内の宗教者を対象とした ゲートキーパー養成研修会

このたび、京都市の委託事業として、僧侶など宗教者の方々を対象とする「ゲートキーパー研修」を2013年2月に開催します。葬儀に携わることの多い宗教者は、ご遺族にとっては、大切な人を亡くした直後に会える支援者の一人ということができます。また、死にたいほどの悩みを抱える方に対し、その苦悩の声をうけとめ、関わることのできる存在としても、近年、大変期待されています。

京都市は、こうした宗教者と連携した活動では先駆的な取組を行っており、毎月、京都市内のお寺で定例のワンストップ相談会を開催するなど、連携の素地ができつつあります。私もこの相談会の相談員として関わっていますが、「宗教者にお話をきいてほしい」という声の多さを実感しています。自死によって亡くなられた方は救われないのかなど、宗教者だからこそ向き合うことのできる疑問や苦悩が多くあります。

当日は、講演形式の「ゲートキーパー研修会」と体験形式の「ゲートキーパー養成講座」の2つに分けて開催します。「研修会」では、有識者や実際に活動している方からお話いただき、自死についての基本的な知識を学びます。また意見交換の場も持つことにしています。「養成講座」では、対人支援の基礎的な力を身に付けていただきます。

宗教や宗派の壁を超えて、あらゆる宗教者が手を取りあって自死にまつわる課題にとりくむことで、自死の苦悩が少しでもやわらぐこと、そして、今後、京都市だけでなく、こうした取り組みが全国に広がることを期待しています。 (副代表 野呂 靖)

### 【京都市委託事業】ゲートキーパー養成研修会

#### 1. ゲートキーパー研修会 (講演形式)

日時：2013年2月25日(月) 13:30～17:00 場所：ひとまち交流館きょうと

#### 2. ゲートキーパー養成講座 (体験形式)

日時：2013年2月26日(火)、27日(水) 9:30～18:00 場所：閻法会館

※内容の詳細、お申込等については別紙チラシをご覧ください

# 本年度も、西本願寺からの委託を受け、 相談員を養成しています。

当センターでは、昨年度に引き続き、浄土真宗本願寺派（以下西本願寺）から委託を受けて、東日本大震災で被災された方々の応急仮設住宅を一軒一軒訪問する相談員の養成を行なっています。今回の特集では、本年度の被災地支援活動の様子を報告します。

### ■養成講座の開催

本年度は、宮城県仙台市にある西本願寺仙台別院において、養成講座を開催してきました。昨年度から数えると、4回の養成講座を実施していることとなります。各回の養成講座には、当センターから4～5人がスタッフとして養成講座に参加しています。受講者数は各回に13～18名ほどです。地元に着した活動になるように、西本願寺と協力し、できるだけ地元の方々へ向けて、口コミを中心に告知してきました。実際に6～7割の方は宮城県内からの参加者です。

講座では、活動の対象・目的・方法を明確に伝えるように努めています。

対象：東日本大震災で被災し仮設住宅に住んでいる方

目的：死にたいほどの苦悩を抱えている方の孤独による苦悩を和らげる

方法：苦悩を抱えた方の気持ちを丁寧に受けとる

その上で、実際の相談内容に即した模擬相談（ロールプレイ）を繰り返し経験していただ

きます。普段であれば無意識に触れない

ようにしているような気持ちの部分に触れ

ることになるため、毎回のように涙する受

講者が出るほど大変な講座です。しかしな

がら、いたるところで、暖かな気持ちの触

れ合いが起こる、素晴らしい講座でもあり

ます。



●養成講座の様子。皆さん真剣に受講しています。

## ■西本願寺東北教区災害ボランティアセンターの訪問活動の様子

現在、養成講座をへて、8名の方が西本願寺東北教区災害ボランティアセンターの相談員として積極的に訪問活動をされています。ボランティアセンターでは、名取市内にある3箇所の仮設住宅を中心に訪問活動が行われています。平均すると月10日ほどの活動頻度です。ボランティアの参加できる日程を調整して、二人一組で仮設住宅を訪問されます。1日で15件程度の居室の戸をたたき、2～5軒の方のお話を伺っておられます。

当センターからは、必ず〈振り返り〉の時間をとるよう助言しています。〈振り返り〉は相談員本位の自分勝手な関わり方にならないようにするために必要だからです。〈振り返り〉は活動が終わった後に相談員同士で関わり方が適切であったかどうかについて話し合うというものです。また、相談員自身が苦悩を抱えないように、相談員が辛くなったときには、相談員同士で支えあうことの必要性も伝えています。

## ■フォロー研修

養成講座のほか、約2ヶ月に1回のペースで相談員へのフォロー研修も開催しています。フォロー研修では、訪問活動へ一緒に参加して相談内容を振り返ることと、模擬相談（ロールプレイ）を行なっています。皆さん、とても熱心に参加して下さいますので、毎回、とても沢山の〈気付き〉が生まれます。回を重ねる度に、たくましくなっていく相談員の皆さんの姿に、頼もしさを感じています。

## ■今後の展開

当センターでは、西本願寺からの委託があるかぎり、継続して養成講座とフォロー研修を開催する予定です。最終的に、地元の相談員の皆さんが自分たちだけで活動していけるよう、徐々に運営体制を形作っていくお手伝いをしていくこととなります。

また、今年度の新たな動きとして、11月に、岩手県陸前高田の陸前高田ドライビングスクールにて、仙台と同様の養成講座を開催し、12名の方が受講していただきました。西本願寺の陸前高田での活動がどのように展開するのかわかりませんが、今回の養成講座でまいた種が、どんな形であれ、芽を出し、成長することを期待しています。

被災地においても、常に、活動の対象・目的・方法がブレていないかを確認しながら、〈死にたいほどの苦悩を抱えた方〉の孤独による苦悩が和らぐよう、丁寧に活動していきたいと思えます。

(代表 竹本了悟)

## 研修会参加報告

# 「ひきこもり相談支援従事者研修会」

平成 24 年 11 月 14 日、京都府福知山市の京都府中丹勤労者福祉会館で開催された「ひきこもり相談支援従事者研修会」に参加した。

電話相談を受けていると、ひきこもりで悩んでいる方の相談も多いため、ひきこもりについての基礎知識を持つ必要があると感じたからだ。

当日の参加者は 30 名程度。教育、行政、NPO 法人の関係者等さまざまな立場の方が参加していた。

前半は講演形式の研修会で、後半はグループワーク形式の研修会だったが、都合により、前半の講演形式の研修会だけに参加した。

ここでは、京都府の保健福祉相談員・山口徹氏から「ひきこもりの基礎的知識について」、NPO 法人京都 ARU 事務局長・梅林秀行氏から「ひきこもり当事者及び家族に必要な支援とは～体験談をもとに～」の講演があった。

その中で特に印象に残ったのは、梅林氏の体験に基づいた講演だった。〈ひきこもり〉という言葉はメディアなどで取り上げられ多少の知識はあったが、やはり、実体験から見出された支援方法についてのお話により、今までと異なる視点を得ることができた。

〈ひきこもり〉は〈自分に負けている〉のではなく、〈自分の感情と戦い続けることによって心に余裕がなくなる〉ということ。講演を聞くことで、新たな視点を持つことができ、今回の研修会に参加できて良かったと感じている。

(ボランティア 3 期生 N.R.)



## 命の恩人。

東北へボランティアに行かれた方のなかには、被災地域を車で走っていて、カーナビに映し出される映像と、実際に目の前に広がる光景とのギャップに驚かされた経験を持つ方も、多いことだろう。

かつてそこにあった飲食店、衣料店、コンビニ、旅館、ガソリンスタンドや公共機関など、カーナビに映し出される店舗、建物は、目の前では跡形もなくなっている。

たとえ建物が残されていても、無残な被害のあとを色濃く残した姿となって、目の前に佇んでいる。

そうした光景を目の当たりにして、さまざまな感想を抱かれたことだろう。

現在、被災地では、津波の被害に遭った建物の取り壊しが各地で進められている。

「取り壊される前に一度見ておきたかったのよね」

そう言われるご婦人がいらした。

その方は、津波が押し迫ってきたとき、市役所の屋上に避難して、助かったのだそうだ。

「あの建物には助けてもらったから」とも。

しかし、この方が「見ておきたかった」とおっしゃったとき、すでに市役所は取り壊されたあとであった。

じつは解体作業が始まる日、ひとりで見に行くのが怖くて、お友達を誘って見に行こうとされたそうである。しかし、お友達からは「そんなもの見てどうするの？前だけ見て生きなさい」と言われたきり、結局、見には行けず終いになってしまったそうだ。

どんなお気持ちなのかおたずねしたところ、

「それでも私は見に行きたい。一人で行くのは怖いけど、今度見に行ったら来ようと思うの。命の恩人だから」と、ほほ笑みながら力強く答えてくださった。

「それでも私は見に行きたい」とほほ笑んだその目に、命の恩人のいなくなった旧市内は、どのように映るのだろうか。

(ボランティア 2 期生 A.C.)

## 今月のことば

「曖昧な自分」「ゆれている状態」をそのまま、繰り返し表現していくことで生きる力を得ていくように思う。

(若林一美編『亡き子へ - 死別の悲しみを超えて綴るいのちへの証言』岩波書店)

## 活動報告

- 11 月期電話相談件数…151 件（無言 9 件、よりそいホットライン担当 42 件を含む）
- 相談活動委員会  
グループ研修 11 月 5 日（月）10 名、11 月 15 日（木）10 名
- 広報・発信委員会  
委員会会議 11 月 14 日（水）6 名
- グリーフサポート委員会  
委員会会議 11 月 19 日（木）8 名



## 寄付ご協力一覧（敬称略・順不同）2012 年 11 月 1 日～11 月 30 日

浄土真宗本願寺派  
株式会社エクザム  
葛野洋明  
ハグラノブヒロ  
西村達也  
加藤大  
高島市・通安寺（大塚泰雄）  
広島県山県郡・順正寺  
尼崎市・円融寺

ご協力にこころより感謝いたします

### ●支援方法

賛助会員 年間1口3,000円

寄 付 金額は問いません

法人会員 年間1口10,000円

### ●会費・寄付金振り込み先

郵便貯金 ゆうちょ銀行[振替口座] 00950-0-271875

他行間 ゆうちょ銀行[当座] <sup>ゼロキョウキョウ</sup>〇九九店 0271875

●模造紙、ホワイトボードマーカーなど、現物でのご寄付も大変助かります。

### Sotto コメント

今年は例年よりも寒くなるのが早い気がします。京都でも先日粉雪が舞う日がありました。寒くなるとつつい身体が固くなってしまいます。ツルリと滑って怪我をすることのないように気をつけたいと思います。

(N.Y.)

### 発行 2012 年 12 月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局  
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町 92

T E L 075-365-1600

U R L <http://www.kyoto-jsc.jp>

E-mail [so-dan@kyoto-jsc.jp](mailto:so-dan@kyoto-jsc.jp)